

Robotics Report

新たな常識のはじまり

米中貿易摩擦をよそに 成長を見込む中国ロボット産業

nikko am
fund academy



足元、米中貿易摩擦による世界経済への影響が懸念される中、中国のロボット産業は堅実な成長が見込まれている事が、業界レポートや報道などで示されており、中国国内メーカーの躍進も話題になっています。そこで、今回は中国のロボット産業の現状についてご紹介します。

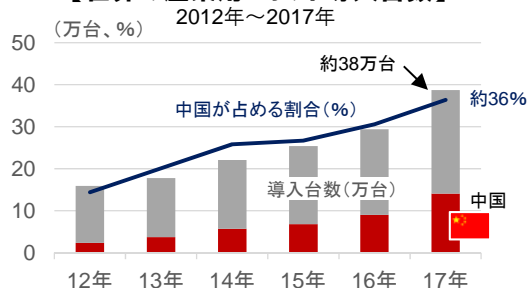
■ 中国のロボット市場規模は1兆円に！

今年8月に中国・北京で開催された「世界ロボット大会2018」で、中国電子学会が発表した「中国ロボット産業発展報告書2018」の中で、2018年の中国のロボット市場規模は87.4億米ドル(約9,800億円)に成長する、との見解を示しました。内訳は、産業用ロボットが62.3億米ドル(全体の約71%)、サービスロボットが18.4億米ドル(同約21%)、特殊ロボットが6.7億米ドル(同約8%)となっており、13年から18年まで年平均29.7%成長に達するとしています。

2017年に中国で導入された産業用ロボットは、世界の1/3超を占める14.1万台で前年比58%(出所:JETRO)となっており、今後もこの勢いは続く予想されます。

また、日本ロボット工業会によると、2017年の日本の産業用ロボットの中国への出荷額は、全体の約40%を占める約2,600億円で、中国市場が日本メーカーの輸出先として重要な位置を占めている事が伺えます。

【世界の産業用ロボット導入台数】



出所:JETRO「急成長する東北地域のロボット産業(中国)」レポートの値を基に日興アセットマネジメントが作成 ※グラフ・データは過去のものであり、将来を約束するものではありません。

■ 中国国内メーカーも躍進

各国の報道からは、米中貿易摩擦などによる経済的影響で、中国への出荷台数が縮小するという論調は見られず、むしろ「省人化」などのニーズにけん引され市場が堅実に成長していく、という見通しが目に留まります。

一方、中国国内メーカーの成長が、中国ロボット産業の“中身”に影響を与える可能性があります。中国・南京で開催された「世界スマート製造大会2018」で発表された「中国ロボット産業発展年度報告2017～2018」によると、中国のロボット開発および自動化ソリューション事業などを行なう上場企業の売上は、2017年の段階で約4,550億元(約7.3兆円)と前年比36%増を記録し、純利益は約250億元(約4,000億円)に達したとされています。最近では、800件以上もの特許を有するHIT ROBOT GROUP社などが、産業用ロボットや工場のスマート化などの市場で存在感を高め始めています。



※写真はイメージです

中国企業は、生産設備や工場の自動化などにおける産業用ロボットの莫大な需要を背景に、関連するアプリケーション市場でも世界トップクラスに躍り出ようとしています。今後は、ハードウェアにとどまらず、AI(人工知能)などソフトウェアの重要性が高まる環境下で、中国国内メーカーの躍進にも注目する必要があります。

*本文中の為替換算は1米ドル=112円、1元=16円

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有、非保有、および将来の個別銘柄の組み入れまたは売却を示唆するものでもありません。

(当レポートは、株式会社ロボティアの情報をもとに日興アセットマネジメントが作成しています。)

■当資料は、日興アセットマネジメントがロボティクスに関する情報についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。